

平成29年第1回滝川市議会定例会市政執行方針等に対する代表質問

質問順位	1	質問者	荒木文一議員	
件名	項目	要旨	メ	モ
1. 市政運営の基本的な考え方	1. まちづくりについて	1. 前田市長は年当初から、信義を貫き、信念を持ってまちづくりにまい進すること、そして自信と信頼をキーワードに「信」の一文字を掲げられております。 本市のみならず、地方自治体の財政状況は厳しく、少子高齢化や人口減少が進む中において、新たな希望を持てるまちづくりの展望を示すことは極めて難しいことだと認識いたしますが、2期目の折り返しにあたり、改めて市長のまちづくりに対する思いを伺います。		
	2. 人口減少対策について	1. 日本の総人口が減少に転じる中、本市の平成29年1月末現在の人口は41,241人となっています。 市民全体で、この人口減少課題に対峙していくために、少しでも減少を食い止めるための視点として、どのようなことが挙げられるとお考えか伺います。		
2. 元気な産業と活力あるまちづくり	1. 農業を起点とした元気な地域産業づくりについて	1. 地域資源を活用した特産品開発、地元産品や既存商品のPR活動並びに販路拡大の取り組みに敬意を表します。 新年度においても更なる農商工連携事業が展開されていくものと思われませんが、推進役を担う滝川市、商工業者、地域農業者のほか、農協も重要な位置づけにあり、推進役の一つと考えますが、関わり方などお考えを伺います。		
		2. 一般社団法人新日本スーパーマーケット協会への派遣が今年度末で終了します。本市の商品PR活動全般にわたり様々な協力をいただいたと思われします。 総括としてどうだったのか。また、派遣終了後の継続的な協力関係がどうなるのか伺います。		

質問順位	1	質問者	荒木文一議員	
件名	項目	要 旨		メ モ
	2. 持続可能な農業のための生産基盤・体制の確立について	1. 食料自給の安定的確保の観点から、販売価格が生産費を恒常的に下回る農産物については、何らかの戸別補償が必要と考えます。直接支払いによる農業保護政策は、米国、EU各国などでも広く実施されています。 北海道の基幹産業たる農業の推進に向け、全道市長会や全道町村会から国へ強く働きかける必要性について、お考えを伺います。		
	3. 力強い産業の育成・雇用の確保について	1. 企業誘致の実現は大変喜ばしいことです。学生以外は、人は職を求めて移動するのが原則であることから雇用にも新たな好影響をもたらすと考えます。 この10年間の議員活動において、企業を誘致する難しさは実感していますが、出来得るなら製造業の誘致が望ましいと考えます。 新たな展開への展望を含めお考えを伺います。		
		2. 国策として単純労働者としての外国人受入れを是としていない現状にありますが、雇用のミスマッチによる地方の慢性的な人手不足解消の方策として、何らかの手立てを講じながらの外国人労働者の受け入れが必要と考えます。 法の遵守や治安維持の懸念など問題はありますが、マンパワーとしての受け入れに対する市長の見解を伺います。		
3. 豊かな資源を活かした魅力あふれるまちづくり	1. 地域自ら取り組む地域振興事業の推進について	1. 新規就農者や農業後継者の育成は、本市の産業対策に欠かせない大きな課題と考えます。 特に憂慮することは、果樹園消失の危機に陥っている現状です。 江部乙地域の美しい村づくり事業にも大きく関わる果樹栽培農家の育成・継続について、道内での余市、留萌、深川など現在でも着実に栽培が行われている地域の後継者対策等を参考とされるべきと思いますが、お考えを伺います。		

質 問 順 位	1	質 問 者	荒 木 文 一 議員	
件 名	項 目	要 旨		メ モ
	2. 広域観光の推進について	1. リュックを背負った単独の海外来滝者も見受けられ、様々な体験、イベントを通じた観光目的での旅行者などが 증가していると感じますが、滝川も含めた中空知の観光資源の評価が客観的にどうなのか実態として良くわからないのが現状です。 今後、観光での集客が伸びていく可能性をどうお考えか伺います。		
4. 機能的な生活基盤の充実したまちづくり	1. コンパクトシティで機能的な都市の形成について	1. そもそも都市の中心部に行政、商業、住宅など様々な都市機能を集約させた形態を目指すもので、人口が増加していた時期の無秩序な中枢機能の拡大を抑制する目的があると認識しています。 本市では、元来、行政機能が集中し一定の利便性が確保されている現状を踏まえ、あえてコンパクトで機能的な都市形成を推進する意味について伺います。		
	2. 住宅ストックの適正管理について	1. 空き家問題は、年々全国的な問題としてクローズアップされてきています。 この対策として継続事業の住宅改修補助事業と住み替え支援補助制度が有効と考えているのか伺います。		
		2. 新規事業として新築住宅助成事業が設けられる提案がなされます。詳細にわたる審議は予算委員会に付託されることから、制度内容についてこの場で伺うことはありませんが、私が懸念することとして近隣住民の奪い合いを助長する制度趣旨は避けなければならないと考えます。個別具体は避けますが、近隣自治体の現行制度に対しては、極めて批判的な個人的見解を付したうえで、市長としてのお考えを伺います。		

質問順位	1	質問者	荒木文一議員	
件名	項目	要 旨		メ モ
5. 誰もが住みよい安全 安心なまちづくり	1. 市内公共交通の充実について	1. J R根室本線の維持存続については、関連自治体首長と連携し、前田市長には現段階で可能と思われる取り組みを積極的に実施していただいていることに心から敬意を表します。 国は、地方の足である公共鉄道を「あくまでも民間会社と地域の問題」とし、リニア建設ではJ R東海に3兆円を融資する方針を表明しています。明らかに地方切捨てとも言える国の方針について、市長のお考えを伺います。		
	2. 地域福祉・自立支援の充実について	1. 住民の安全安心に医療・介護・福祉の充実が欠かせませんが、本市における二次医療圏別の医療・介護余力ランキングでは全国でもトップレベルにあります。施設や制度の充実と民生費の増大は相関関係にあると考えますが、体制整備に関わる今後のお考えについて伺います。		
		2. 北海道医療大学との包括連携協定締結については、各関係所管の皆様のごこれまでのご努力に感謝申し上げます。 資源を活用した相互連携を推進することにより、これからの連携事業がどのように進展していくのか伺います。		
	3. 安心して暮せる保健・医療環境の充実について	1. 市立病院の経営立て直しが急務と思われます。経営改善に向けた滝川市立病院経営計画が示されましたが、新年度当初から見込まれている市民に分かりやすい個別的改善事項があれば伺います。		

質 問 順 位	1	質 問 者	荒 木 文 一 議員	
件 名	項 目	要 旨		メ モ
6. 効率的な行政運営によるまちづくり	1. 財政健全化計画について	1. 高齢化、人口減少を含め地方の疲弊が加速しています。本市においても大変苦しい財政状況を受け、市長を筆頭に職員一丸となって健全化に向けて取り組んでおられます。しかし、これまで10年、20年のスパンで事業見直し、組織のスリム化等を実施してきており、一般的な表現である贅肉はほとんど残されていないのではないかと感じます。平成29年度における財政健全化に向けた具体的な方針について伺います。		
		2. 平成29年度予算概要から、比較対象年である平成26年度に対し、23名の職員削減がなされることになります。 財政健全化に向け組織のスリム化は避けられないことは認識しておりますが、事務事業の更なる見直しがなければなりません。私が特に懸念していることは、スリム化ありきの方針が新規採用抑制を招き、将来の職員の世代構成に大きな歪が生まれないかということです。翌年度以降に向けた職員採用のお考えを伺います。		
		3. 平成 29 年度より、公営住宅が指定管理となります。時代の流れとは言え、市直営の象徴的事業を利用者サービスの向上を目的とした民間管理に委ねる方針を支持いたします。 新聞報道では、総務省と内閣府が小規模自治体に対して平成 29 年度からの 3 年間で民間委託推進の集中改革期とし、通知すると報じています。事務事業の見直しを含め、新たな展開への方針を伺います。		
	2. 歳入確保について	1. 疲弊する地方自治体歳入が増えるだけでなく、税収の偏在是正、地元産品の販売増による経済効果など、現在のふるさと納税制度は、一定の評価ができると判断しています。しかし、返礼品合戦の加熱ぶりに対するマスコミ論調や総務省の動きを見る限り、今後、是正されていく可能性があるのではと感じます。 市長のふるさと納税に対する現評価について伺います。		

質 問 順 位	1	質 問 者	荒 木 文 一 議 員	
件 名	項 目	要 旨		メ モ
7. 教育行政執行方針	1. 学校教育について	1. 本市の出生数が年間で初めて 300 人を切ってから 5 年が経過しようとしています。5 年前に生まれた子どもたちが就学するまであと 1 年となりますが、単純に 35 人学級で市内に 10 クラスあれば十分との計算が成り立ちます。 少人数学級の拡充・推進に賛成の立場ですが、いずれにしても全学年が 35 人学級となっていかがるを得ないのが将来の見通しではないのか、お考えを伺います。		
		2. 学習指導要領による市独自の滝川市道徳教育推進事業が進められています。内容や過程については実践報告書において確認することができます。「生徒児童の心に響く道徳」がキーワードと思われますが、引き続き同様の視点で実施されていくのか、その方向性について伺います。		
	2. スポーツの振興について	1. スポーツ施設の充実には、財源問題が切り離せないファクターと思います。 市内の児童・生徒のスポーツ系クラブ活動も活発に行われている中で、何とか充実した施設で心身の成長に寄与できればと願っております。 平成 29 年度内で目途がつきそうな具体案件があればお示し下さい。		